

青柳小学校のテーマは『学力向上』です。今年度も、様々な角度から子供たちの学力向上に役立つ情報をお家の方にお知らせいたします。保護者の皆様とともに、子供たちの未来のために、学力を向上させていきたいと思っております。御理解、御協力のほど、よろしくお願いします。

今回のテーマは、「鉛筆の正しく持つ」です。



## ～なぜ、鉛筆を正しく持たないといけないの?～

今年度は、全校で、普段のテストから「まず、名前を丁寧に書こう」と意識をもって取り組んでいます。硬筆も始まり、子供たちにも、字を丁寧に書こうという意識が高まっています。しかし、丁寧に書く意識が高まる一方で、まだ、鉛筆を正しく持てていない子もいます。

「字が正しく書ければ持ち方なんて関係ない。」という声もあります。しかし、やはり字の形を正しく書くためには、正しい持ち方が理にかなっています。書写の教科書にも、鉛筆の持ち方がのっています。硬筆も国語ですので、「上手に書けるか」とともに、「正しく持てるか」が大切です。そして、鉛筆を正しく持てない弊害は、将来に向かってどんどんと大きくなります。**その理由は・・・**

### ①字を書くスピードに大きな差!

連絡帳を時間内に書き終わらない児童は、正しい持ち方ができていないようです。中学年・高学年では、書くスピードがないと、授業中でもノートを書きただけで精一杯。**考える時間**がとれません。学力調査やテストで無解答の多い児童は、実は、書くスピードが足りないことが原因のようです。(問題を解く時間が足りなくなる) 中学校での勉強や受験のことを考えると、スピードはとても大切になってくるはずですよ。



### ②姿勢が保てず、視力低下・・・

さらに、鉛筆を正しく持てないと、姿勢が悪くなり、視力低下につながります。そして、姿勢が保てないことで、肩や背中の筋肉が非常に緊張し、内臓にも負担がかかります。勉強への意欲が低下するだけでなく、別の病気の原因ともなりえます。



### ③将来、仕事を任せられるかのチェックポイント!

社会に出るときには、鉛筆の持ち方で採用・不採用を決める場所もあるようです。筆記試験の最中に何気なくチェックし、採点もせず合否判定。確かに小学校入学前後から、「正しい持ち方」をしようと言われて続けても、結局直さない人【**＝仕事でも助言を聞き入れない人**】と判断されるのかもしれない。また、商談相手が変な鉛筆の持ち方したら・・・等々。世の中いろんな場面で、見られてないようで、結構見られてるかも。



つまり、「鉛筆の持ち方なんて、それくらい・・・」では済まないのが、『鉛筆の持ち方』です。お家ではもちろん、授業参観等でも、お子様がきちんと鉛筆を持てているかを参観のポイントのひとつにしてください。お子様が、「持ちにく～い!」「こっちの方が書きやす～い」と言うのは、すでに正しくない持ち方に慣れてしまったせいかもしれません。お子様を励まし、粘り強く支援してあげてください。**お子様の将来の財産**にも不利益にもなりうることです。

ぜひ、お子様と話し合う機会にしてください。

**～まず、鉛筆を正しく持とう～**

# ～正しく持つためのトレーニングやくふう あれこれ～

鉛筆を正しくもつためには、指先の感覚を高め、力加減ができるようにするトレーニングをすることが必要です。ただ叱る、や「しっかり持ちなさい」では、なかなか長続きはしません。そもそも、子供には「しっかり」の定義が伝わりません。

子供が楽しみながら、自然と鉛筆が正しく持てるように指先の感覚を高める活動を取り入れたり、合言葉を使ったりするのはいかがでしょうか。

## ◆まずは、指先のトレーニング



鉛筆を正しく持つためには、指先の感覚を高める必要があります。

親指、人差し指、中指の3本の指でつまむトレーニングは効果があるようです。

○座布団等の上に大豆（ボタンやおはじきでも可）をバァーと広げて、3本の指でつまんで拾い集めるゲーム。何秒で集められるかな。

○野菜の種をまく作業も、これに近いです。指で穴をあけ、その穴の中に、親指、人差し指、中指の3本の指をつかって種をまく。



## ◆バナナやミカンの子供にむいてもらおう！

バナナやミカンを子供にむいてあげてませんか？ バナナやミカンをむくには力加減が必要で、子供にとって絶好の機会です。使う指は、親指、人差し指、中指の3本が中心。さあ、トレーニングの時間です。バナナの皮は5つ以上に分けてむくなど条件をつけると面白いです。せっかくなので、お家の人の分も子供にむいてもらいましょう。

※感染症対策にも御配慮ください。

## ◆お箸のトレーニングは鉛筆の持ち方につながる！

ただ、鉛筆の持ち方トレーニングだけをしていても意欲も長続きしません。お箸のトレーニングも効果的です。定番ですが、1分間で、お椀から別のお椀にお箸で大豆を何粒移せるか！ただし、すくったり、箸のうえにのせて移動したりするのはNGです！家族で競争するのも楽しいですよ！ただし大人は、菜箸や利き手でない手で勝負してください！

豆腐をお箸で食べるのも、力加減が上手になり、よいトレーニングになりそうです。

最初は上手にできないかもしれませんが、ぜひ励ましてあげてください。

## ◆合言葉を使って意識を高める！

右手で鉛筆を持つ場合、まず、机に先端を右側に向けて鉛筆を置きます。（子供から見て）

### 「つまんで、たおして、うしろから」

<つまんで> ……親指と人差し指で鉛筆の削った部分から1cm位のところをつまみ、持ち上げる。

<たおして> ……鉛筆を右手にぶつかるまで倒す。

<うしろから> ……うしろから中指で支える。



## ◆鉛筆を正しくもつために器具や三角鉛筆の活用

学校でも鉛筆を正しく持つための器具は低学年で購入させてもらっています。正しい持ち方が定着できるまでは、高学年でも、ぜひ使用してください。また、断面が▲の形をした三角鉛筆も鉛筆を正しく持つのに役立ちます。

生活の中でも、ボタンやひも靴など指先のトレーニングになる場面はたくさんあります。たくさん体験させることで指先の感覚が高まります。ぜひ、工夫してみてください。